

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294201039		
法人名	株式会社アイケア		
事業所名	あいの街袖師		
所在地	静岡市清水区袖師141-1		
自己評価作成日	平成29年1月20日	評価結果市町村受理日	平成29年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2294201039-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年1月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気の中で安心して暮らせるよう、ご利用者様のニーズに合わせ必要なサービスができるように職員全員で意識行っています。出来るだけ残存機能を活かして頂ける様「できること」の支援が必要な事を職員が情報交換をし行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

階下に小規模多機能を併設して2階に在る事業所です。階段口には見事に「似ている」似顔絵の職員紹介が掲示され、楽しい気分で昇った先にも鮮やかなソファカバーの出迎えがありさらに高揚します。パーツの1枚1枚に想いが滲む力作は利用者と職員とでパッチワーク式で毛糸制作したもので、普段から手を使ったことに動いている様子が浮かびます。また5周年感謝祭には職業体験を通じて親しくなった中学生が部活帰りに立ち寄ってくれ、自治会からは折り畳みの椅子、駐車場は民生委員が間に入って寺院やJAから借りることができ、老人会ではチャリン配りを請け負ってくださり、開設から5年の積み重ねが花開いた1日となりました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「元気で明るく笑顔ですごく」という事業所理念のもとご利用者様だけではなく職員も実践できるよう考えて取り組んでいます。	理念は誰もが目にするところに貼り出すとともに朝礼で唱和して共有させています。利用者の明るさに引っ張られる形で職員も思わず笑顔がこぼれる関係にあり、自然に理念が実現しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の清掃に参加しています。又中学生の職業体験を受け入れ交流をしています。	中学校の職業体験では利用者の指南で生徒が匂い袋をつくって過ごす場面もあったという有意義な時間となり、地域での再会では生徒から元気な声で挨拶してくれたとの嬉しいエピソードも生まれています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会で利用者様の状況やサービス内容を話し合っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度会議を開催しています。利用者様の利用状況、行事の報告、サービス内容等の報告をしている。意見をサービス向上に活かしています。	運営推進会議で配布の資料の表にはカラーのイラストが入り、参画へのムードも高まります。併設事業所と合同で隔月開催していますが、2事業所合同にしては参加者数が少ないことは課題の一つです。	次の2点を期待します。①市役所へ、議事録だけでなく案内を提出する ②参加メンバーを検討する
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員が一月に一度来て利用者様の声を聴いて下さいます。	介護相談員が月1回、隔月の運営推進会議には地域包括支援センター職員が毎回、市役所からは年1回の来訪があり、行政からの助言や指導を受けることができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束よりスピーチロックが気に入り常にミーティング時に話し合い改善しています。	「高齢者虐待防止に向けた～自己チェック」を定期的におこなっています。「しっかり自身で歩くことができる2名が秘密談義しての外出では、その後ろを職員が見守ってついでいく」といった微笑ましいエスケープがありますが、施錠をしない環境をつくるよう努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から入浴時には新たな傷・内出血など観察している。身体や、本人の行動・言動に注意を払い早期発見できるよう、職員同士情報を共有しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を行い権利擁護について理解しています。職員同士の話し合いの場を増やすよう努力しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文章を基に口頭にて説明を行い、疑問点や要望などはその場でお伺いしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月家族に手紙を送り日々の様子などを伝えし来所時も家族が意見などを申しやすいように配慮しています。	毎月写真も添えた便りを家族に届けており、「ファイルに綴じて繰り返し見ってます」と言ってくれる家族もいます。利用者からは「家族に電話したい」「今日なんか(レク)したい」「白和えが食べたい」と日々声が挙がっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度ミーティング・研修を行い職員が働きやすい環境づくりと同時に一人一人の能力向上に努めています。また個人面談では周囲からの意見も話し自己覚知を促しています。	毎月の会議のほかに「年に1度は個人面談を」と、職員意見の反映を考慮しています。編み物、クラフト、折り紙、歌にとそれぞれの職員に強みがあり、活躍していることが「楽しさ」につながり、アイデアも豊富にでています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の身体・精神状態に気を配り、業務に目的を持ちなおかつ向上心を持てる環境整備に努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修を通じて学んだ内容をミーティングで職員に伝え育成に取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に一度のセクション会議を各施設内で行い意見交換をしています。施設会議にも参加し、他施設と情報を交換しサービスの質の向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前にご本人・ご家族に直接コミュニケーションを図りサービスの説明をさせて頂いています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	在宅介護生活の大変さや問題点を家族と共に確認し情報をたくさん収集し共に考え信頼関係の構築に心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に応じアセスメントをしっかりし、必要としているものが何か理解するように努めています。急なご利用などにも速やかに対応できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ない所や難しい所をお手伝いさせて頂くという気持ちで支援しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が参加できるイベントを開催し家族との交流が出来るようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の七夕や神社のお祭りなどに参加し関係が途切れないようにしています。	法人の大運動会の準備では玉入れの玉作りも率先してつくってくださるほど針仕事が盛んです。クリスマス会や敬老会など、年2～3回行事に招いて一同に会する機会もあり、職員も孫の名前まで憶えているほどです。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士声を掛け合いオセロやトランプ・パズルなどやっています。また女性利用者が多い為編み物や裁縫を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も本人のところに訪問して暮らしの経過を確認しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント時、ご本人やご家族に伺いそれに沿ってプランを立てています。利用者様の思いや意向について気づいたことがあれば、記録や申し送りにて職員共通意識を持つよう努めています。	利用者が「あの人に言えば大丈夫」と安心を覚えるよう、居室担当制を敷いています。職員とは冗談を言いあい、また90歳を越えてもなお明快地に発言される人もいて、大半が直接意向を言っていることを視認しました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを活用し理解に努めている。会話からも情報を得る様努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人や家族から情報を得ています。言動や表情を観察し日々の変化に気づける様努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族関係者を交え希望・要望・意向を伺い意見やアイデアを反映しそれを基に作成しています。職員の意見も参考にしています。	計画作成担当者兼介護支援専門員が週3回、半日勤務で介護計画書を作成しています。管理者が「職員の聞き取りだけでなく、必ず本人に会って話を聴いて欲しい」と依頼しており、本人本位の作成が叶っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の経過記録・排泄・入浴・食事・バイタルチェックを記入しています。気づいた点や変化がある時などは連絡ノートに記入し情報交換に生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟な支援やサービスが行えるよう対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの受け入れなど豊かな暮らしにつながるよう支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診希望の方は月2回受け看護師が対応し他の方はかかりつけ医の受診を支援しています。利用者様の経過を主治医に伝え適切な医療を受けられるように支援しています。	従来のかかりつけ医を継続する2名以外は、月2回訪問診療をある協力医に変更しています。医療連携加算をとり週2時間訪問看護の来所があり、その看護師が階下に常駐していることへの安心感もあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師がいます。また状態の変化や処置などがある時はすぐに対応して頂いております。		
32		利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報提供を行っています。退院時は看護師と共に退院指導を受け病院関係者との関係づくりを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医や家族・施設看護師と話し合い終末期を迎える。また勉強会などを開き看護師から色々な事を教わり看取りも行っていきます。	昨年1名看取っています。1階に訪問看護事業所が開設するとともに小規模多機能事業所には看護多機能が付き、看護師が同じ建物内にいることで、看取りの不安も軽減しています。	緊急時の対応(延命措置等)について家族との合意をもっておくとおな良いと思います。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応や応急手当は施設研修や看護師から教わり実践を行いながら身に付けていきたいです。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火器の使い方や二階からの移動の方法等勉強しました。また夜間を想定し近隣に住む職員の対応など話し合っています。	消防署職員から「非常階段では毛布でくるんで下すしかない」といった助言や、夜間想定も机上での説明を受けています。また遊びのようにして声出しの練習を利用者とおこなったりと、日常でも意識して取り組んでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に高齢者への尊厳の想いを忘れず人生の先輩として礼儀や言葉使いに気を付けるよう心がけています。介助の1つ1つも尊重し対応を行うよう努力しています。	本人と家族に確認して希望も踏まえたうえで、職員間、利用者→職員、職員→利用者も下の名前で呼び合って、まるで一つの家族のようです。排泄に関する業務連絡には特に留意し、書面も記号化しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	認知症の状態や理解力に応じ選択肢の増減をもって対応しています。尊厳・傾聴に心掛け、押しつけ介護にならないような配慮を心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人1人のペースを大切にし本人らしさを尊重しています。1日を楽しく暮らして頂ける様心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容院のご希望があった際は、地域の美容師をお願いし女性らしさを忘れないよう支援を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	惣菜はレトルトではありますが、季節の果物を別に用意したり、育てている野菜で何が出るなど利用者様と話し収穫や調理を一緒に行っています。	「昨日収穫したほうれん草が入りましたね」「え〜どこお、早く言ってえ」と弾みあるやりとりがあり、賑やかな食事風景です。ご飯に汁物、小鉢3皿、デザートを完食して、平均年齢86歳とは思えない健啖ぶりです。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量など毎回チェックしています。食事形態もその方に合わせ提供し出来る限り召し上がっていただける様職員同士話し合い情報を共有しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自身で困難な方はこちらで支援しています。うまうまいが出来の様声掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターンを理解し声掛けや介助見守りを行っています。自力排便が困難な方もトイレに座ることにより排便出きたりします。	脱衣所、備品庫に其々つながるトイレが2箇所あり、創作が得意な事業所のためか、トイレ内も清潔でありつつも殺風景ではありません。こだわりのある利用者のトイレ占拠について職員間で協議したケースもあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分や野菜を多く摂る。よく噛んで食べるなどの声掛けやまたそれでも困難な方には看護師より薬の調整などをしていただいています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴は体調や気分に応じ支援しています。またシャワー浴の場合は同時に足浴をするなど配慮しています。	夏には週3回を試みたところ利用者から「疲れる」との声があがり2回に戻していますが、「温まって眠りについて欲しい」との想いを以て、入浴のない日には足浴をおこなっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	身体状態や体調に応じ随時休息してもらえる環境にあります。また入浴日以外の方は足浴を良眠のお手伝いをしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用・用途・用量については、職員に情報・説明を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器洗いや洗濯物置をやって頂いています。またズボンなどのすそ上げやほころびを直していただきます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や利用者様の体調また職員の配備に合わせて散歩や外出外食を行っています。	朝の調子で「今日は歩けそう?」と確認して、車いすを使用するか判断しています。ベランダにでて戸外の風にあたることはあっても散歩は習慣とはなっていませんが、年間行事に定めた恒例の花見やいちご狩りのほか「ちょっと鉄火丼食べに〜」は随時あります。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っていることで安心される利用者様もいます。また外出時が家族から預かったお金を自由に使える様本人の意思に任せ使ったりしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「自宅に電話をしたい」など希望される利用者様の対応をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事等の写真や利用者様作成の展示物などを飾りつけしています。利用者様希望の1日の日めくりカレンダーも一緒に手作りしました。	利用者と職員との親しさが居心地のよさを高めています。窓からは中学生が校庭で運動する姿を眺めることができ、中では職員と一緒に制作したレクリエーション作品や行事写真に囲まれて和やかなムードが流れる空間が広がります。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	レクの内容により席を移動したり本人の希望を含め居場所づくりを考えています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	身体状況に合わせ居室をご用意させて頂いています。本人が趣味で昔作った物を飾ったり植木を置く方もいらしゃいます。	クローゼットが予め配されていることもあり大きな持ち込みは見られませんが、籐でできたチェストや椅子などその人らしいものが置かれています。また高校生の孫が描いた肖像画や自ら制作の作品が並ぶ居室もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活の導線に邪魔になるようなものを置かない工夫をしています。		